

【全体概要】

- 中山間地域等の作付け条件が不利な水田等を活用したグリーン花材栽培を導入し耕作放棄を防止
- グリーン花材生産体制を確立し、花き卸売市場や実需者の求める花材を供給できる産地づくり
- 土地利用型経営体の経営強化に向けた品目として、冬期に収穫できる枝物生産を推進

新品種・新技術等の概要

- ユーカリの導入
組花でグリーン花材として利用できる品目で、本県の産地づくり品目として2年前から導入。
- 中山間地域等の条件不利地や耕作放棄地でのユーカリ栽培の推進
未整備田や獣害を受けるほ場においてユーカリを栽培することにより農地の有効活用を促進。
- 灌漑整備が不十分なほ場での給水管理技術
拍動灌水システムの導入によりかん水管理の省力化と用水の有効利用。
- 湿害対策技術
盛土式根域制御栽培法の導入により、排水不良田で栽培が可能になり樹勢が抑制できる。



拍動灌水システムの実証



中山間地域での栽培実証

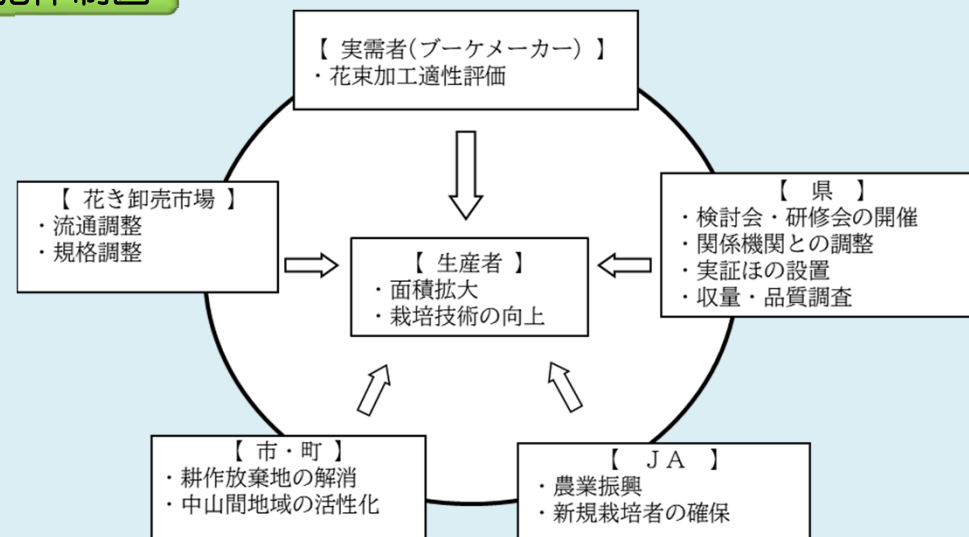
主な取組内容

- ・耐寒性や多収性等、本県での花束加工用ユーカリ栽培に適する品種の調査・選定
- ・ユーカリの特性把握のための現地検討会の開催
- ・拍動灌水システムおよび盛土式根域制御栽培法の実証ほを設置
- ・生産物の形質（葉色、葉形等）について市場性を確認し、花束加工適性の評価
- ・技術実証結果および花束加工適性評価をもとにした栽培マニュアルの作成
- ・県域の生産振興大会を開催し、土地利用型経営体に対して導入を提案



品種適応検討会の実施

実施体制図



課題と今後の対応

〔実績〕

- ・ユーカリ産地の早期形成に向けて6品種（銀世界、グニー、ブリッジシアナ、パルブラ、シルバードロップ、ポリアンセモス）を選定できた。
- ・拍動灌水システムの実証ほを2か所、盛土式根域制御栽培法の実証ほを1か所設置し、中山間地等の条件不利地における有効性が確認できた。
- ・野生獣のほ場への侵入はあったが、食害しないことが確認できた。
- ・「ユーカリ栽培の手引き」を作成し、ユーカリの生産振興および技術普及を図った。
- ・ユーカリ栽培面積は0a(R元)から310a(R3)に拡大した。また、出荷本数は0本(R元)から65,595本(R3)となった。

〔今後の展開〕

- ・中山間地等でのユーカリ栽培の振興をさらに進める。
- ・定植3年目の樹形管理技術の向上を図る。